

心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信 No.25
平成27年12月17日

“真の友情” について考える ～4年生の道徳～

4年生は、心身ともに大きく成長する時期です。友達との関わり方も少しずつ変化が見られるようになりました。自分の感情をコントロールしながら友達と関わる様子や相手のことを考えながら接することができます。しかし、まだまだ成長段階のため、時には思い通りにならず、感情のコントロールができないこともあります。そこで、今回の授業では、『ミレーとルソー』という資料を通して、自己の利害に関係なく互いに信頼し助け合おうとする“真の友情”について考えました。

自分自身も生活に困っていた、ルソーがミレーの絵を買いつけ、それによってミレーの生活が安定し、画家への夢もつなぎ止めます。しばらくして、ルソーが自分のために嘘をつき助けてくれたことに気付きます。この時のミレーの気持ちについて問うと、「本当の友達だ」「いつか恩返しをしたい」という気持ちを発表してくれる人がとても多くいました。そして、ルソーの友情を通して、あなたの考える友情について問うと、「助け合う・励まし合うのが友情」と考え、発表してくれました。最後に、『新友は、親友なり、信友となって、真友となる』という言葉を知り、友達と助け合い、励まし合うなどの真の友情について考えを深めることができました。

みんなの意見

- ★自分のことより友達のことを考えることが友情。
- ★友達のことを本気で考えられる。家族のように大切に思うことが友情。
- ★友達と助け合い、素直に喜び合うことが友情。
- ★自分の事より人を優先しよう。それで、人が幸福になれば、ぼくはうれしい。
- ★心が通じあった時に友情がめばえる。



友達のためになんとかしてあげたいと思い、行動すること。

いいね。わたしも、自分のことだけでなく友達のことを考えることが大切だと思うよ。

相手のことを考えてついたら、それによって、友情をふかめることができた。

